わかもののまちサミット2020
開催レポート

私たちが今つくりたい”わかもののまち”とは何か？

【開催概要】
日時：2020 年 1 月 26 日（日）10:00-17:00
会場：名城大学ナゴヤドーム前キャンパス
参加者数：85 名
プログラム：
　10:00-12:00 オープニングセッション / 全体会
　13:00-15:30 テーマ別分科会
　15:30-17:00 全体振り返り
　17:00- 交流会
主催：NPO 法人わかもののまち
企画・運営：わかもののまちサミット 2020 実行委員会
後援：愛知県、内閣府
協力：名城大学社会連携センター PLAT

【開催報告】
◯ オープニングセッション
〈開会挨拶〉水野翔太（名古屋わかもの会議）
まず、主催者を代表し、水野翔太実行委員長からの開会挨拶があり、今年度はじめての開催となる「わかもののまちサミット」の開催趣旨の説明が行われた。説明のなかでは、名古屋開催への謝辞や第 2 回の開催が 2020 年 12 月に京都で行われることも発表された。

◯ 全体会
〈コーディネーター〉
川中大輔（シチズンシップ共育企画 / 龍谷大学）
山本晃史（認定 NPO 法人カタリバ）
〈パネリスト〉久保田圭祐、沼上文音
（NPO 法人あおもり若者プロジェクトクリエイト）
山本彩生、瀬野航太（新城市若者議会）
田口裕斗（NPO 法人縁塾 / NPO 法人 Mielka）

その後の全体会は、川中大輔さんと山本晃史さんがコーディネーターとなって、若者発・行政発・議会発のそれぞれ３つの視点から「わかもののまちづくり」に取り組む３団体の若者がパネリストとなり、「参加型パネル」の方法で進行が行われた。「参加型パネル」は、コーディネーターが出す質問に、登壇者・参加者がともに答えていく手法で、「どのような活動をしているか？」「その活動を通じて何を実現したいか？」「これからどんなチャレンジをしていきたいか？」などの質問が出されました。参加者は、コーディネーターからの質問を A4 の紙に書いて、小グループでディスカッションをするなど、積極的に交流を行いました。

○ テーマ別分科会

第１分科会「教育としての参加と権利としての参加」

〈ゲスト〉山本晃史（認定 NPO 法人カタリバ）

山田恭平（特定非営利活動法人こども NPO）

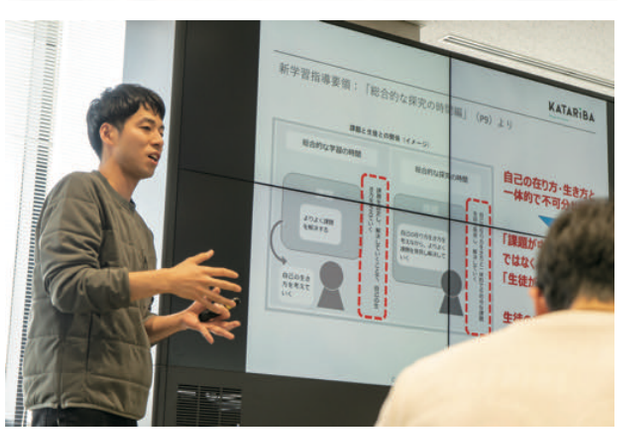
〈コーディネーター〉土肥潤也（NPO 法人わかもののまち）

分科会趣旨：

2022 年度から高等学校の学習指導要領において「探究」がキーワードとなり、一部の高校では既に地域参加学習などに取り組み始めています。一方、若者の地域への参加は権利であり、教育として押し付けられるべきではないという考え方もあります。教育としての参加と自主活動としての参加の双方の立場からのパネリストの話題提供をもと、議論の整理を行いたいと思います。

ショートレポート：

まず、ゲストのおふたりから、それぞれ分科会のテーマである「教育としての参加と権利としての参加」に関する話題提供が行われた。「探究」が授業科目としてスタートすることから、学校教育と社会教育や学校外での子ども・若者参加実践の連携について、参加者全体で議論が行われた。



第２分科会「わかもの会議」は何を持って成功とするのか？
〈ゲスト〉小泉卓登（富士山わかもの会議）
小嶋あかり、岡田真彰（ユースカウンシル京都）
兼子みさと、水野友美子（若者ぷらっとホームやいぱる）
〈コーディネーター〉水野翔太（名古屋わかもの会議）

分科会趣旨：ここ数年で、若者が積極的にまちづくりに参加する仕組みとして「わかもの会議」の取り組みを見ることが多くなりました。行政主体で実施しているものあれば、若者主体で実施しているものなどその方法も様々です。この分科会では、ひとつの区切りとして活動を休止しているものから、最近になって取り組みをはじめたものまで、幅広い「わかもの会議」の関係者に登壇いただき、「わかもの会議」の目的や何を持って成功とするのか？を議論します。

ショートレポート：富士山わかもの会議の立ち上げに携わった小泉さん、京都でユースカウンシル（わかもの会議）の活動に取り組み始めた小嶋さん・岡田さん、スウェーデンでユースカウンシルの取り組みを視察してきた兼子さん・水野さんから、それぞれ現在の取り組みや分科会のテーマに関する話題提供があり、後半はワークショップ形式で参加者同士が議論を深めた。

第３分科会「“わかもののまちづくり”のバトンを次代にどう繋ぐか？」
〈ゲスト〉櫻井龍太郎（生き方工房 necota）
丸山純平（学生団体 IFU/ 元岐阜わかもの会議）
滋野正道（京都わかもん会議）
〈コーディネーター〉川中大輔（シチズンシップ共育企画）

分科会趣旨：若者が取り組む活動では、組織の流動性が高いが故に世代交代や引き継ぎが大きな課題となることが多くある。また、引き継ぎと一口に言っても、活動内容だけでなく、人間関係や思いの引き継ぎなど、目に見えないものもある。しかし、“わかもののまちづくり”に取り組む上では、バトンを次代にどう繋ぐかは重要なテーマであり、この分科会ではこのことを検討する。

ショートレポート：主に学生時代に「わかもの会議」などのまちづくり活動に取り組んでいた３つの団体の関係者がゲストとして登壇し、自身の活動をふりかえりながら若者活動の「引き継ぎ」をテーマに話題提供がされた。

第４分科会「わかものと地域を繋ぐ
コーディネーションのあり方を考える」
〈ゲスト〉三木 俊和（有限責任事業組合まちとしごと総合研究所）
仁志出憲聖（株式会社ガクトラボ 代表）
山本和男（NPO 法人アスクネット代表理事）
〈コーディネーター〉田口裕斗（NPO 法人縁塾）

分科会趣旨：若者の地域参加を推進していくときに、若者と地域を繋ぐコーディネーターの存在が大きな役割を果たす。この分科会では、実際に若者と地域のコーディネーションに取り組む実践者をゲストに招き、わかもののまちづくりを進める上でのコーディネーターのあり方を改めて考える。

ショートレポート：京都・石川・愛知で若者と地域のコーディネーションに取り組む３人のコーディネーターから実践報告が行われ、それをもとに分科会のテーマである「若者と地域のコーディネーションのあり方」について会場全体で活発な議論を進めていきました。

○全体ふりかえり会
〈ファシリテーター〉土肥潤也（NPO 法人わかもののまち）
それぞれの分科会を受けて、本サミットの主催団体の土肥潤也がファシリテーターとなり、全体のふりかえり会を担当した。ふりかえり会では、参加者・登壇者が小グループに分かれ、「あなたがも持ち帰りたい / 実践したい学び・気づき・問いは？」と、このサミット全体のテーマである「私たちが今つくりたい”わかもののまち” とは何か？」のふたつの問いについてそれぞれディスカッションされた。